

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-176411

⑬ Int. Cl.<sup>9</sup>

A 61 K 7/02  
7/00

識別記号

庁内整理番号

Z 9051-4C  
B 9051-4C  
J 9051-4C  
L 9051-4C

⑭ 公開 平成3年(1991)7月31日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 油性固形化粧料

⑯ 特 願 平1-314883

⑰ 出 願 平1(1989)12月4日

⑱ 発 明 者 松 枝 明 東京都北区栄町48番18号 株式会社小林コーセー研究所内

⑲ 発 明 者 平 井 公 徳 東京都北区栄町48番18号 株式会社小林コーセー研究所内

⑳ 出 願 人 株式会社小林コーセー 東京都中央区日本橋3-6-2

㉑ 代 理 人 弁理士 有賀 三幸 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

油性固形化粧料

2. 特許請求の範囲

1. 次の成分(A)~(C)

(A) マイクロクリスタリンワックス、ポリエチレンポリプロピレン共重合体、ポリエチレンワックス、セレンシンワックスおよびパラフィンワックスから選ばれる1種または2種以上の固形ワックス

5~40重量%

(B) 粒径0.1 $\mu$ m以下の酸化チタン、酸化亜鉛、酸化アルミニウム、無水ケイ酸および酸化鉄から選ばれる1種または2種以上の微粒子粉末

1~30重量%

(C) 液状油剤 30~80重量%  
を含有し、入射角、反射角共に60°の場合の光沢度が40%以上であることを特徴とする油性固形化粧料。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、新規な油性固形化粧料に関し、更に詳細には、経時的な発汗を伴わず、優れた光沢を有する油性固形化粧料に関する。

〔従来の技術〕

従来、口紅、アイシャドウなどの油性固形化粧料においては、優れた光沢を有するものが望まれており、このために、成分中の固形ワックスに対する液状油剤の割合を増して、光沢を向上させていた。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、油性固形化粧料の光沢に有意差を出すほど液状油剤の割合を増加させると、化粧料の表面に経時的に発汗を生じてしまい、実際に製品化するには困難であった。

従って、経時的な発汗を伴わずに、優れた光沢を有する油性固形化粧料の開発が望まれていた。

〔課題を解決するための手段〕

かかる実情において、本発明者らは鋭意研究を行なった結果、特定の固形ワックス、特定の微粒

子粉体および液状油剤を組合わせて用いれば、経時的に発汗が生じず、優れた光沢を有する油性固形化粧料が得られることを見出し、本発明を完成した。

すなわち、本発明は、次の成分(A)~(C)

(A) マイクロクリスタリンワックス、ポリエチレンポリプロピレン共重合体、ポリエチレンワックス、セレンシンワックスおよびパラフィンワックスから選ばれる1種または2種以上の固形ワックス

5~40重量%

(B) 粒径 $0.1\mu\text{m}$ 以下の酸化チタン、酸化亜鉛、酸化アルミニウム、無水ケイ酸および酸化鉄から選ばれる1種または2種以上の微粒子粉体

1~30重量%

(C) 液状油剤 30~80重量%  
を含有し、入射角、反射角共に $60^\circ$ の場合の光沢度が40%以上であることを特徴とする油性固形化粧料を提供するものである。

本発明の(A)成分である固形ワックスは、マイクロクリスタリンワックス、ポリエチレンポリブ

ロピレン共重合体、ポリエチレンワックス、セレンシンワックスおよびパラフィンワックスから選ばれるもので、単独または2種以上を組合わせて用いることができる。これら固形ワックスを具体的に例示すれば、マイクロクリスタリンワックスとしては、ルバックス2191(日本精ろう株式会社製)、マルチワックスW-445(ウィットコ・ケミカル社製)、モービル190Y(モービル石油社製)；ポリエチレンワックスとしては、ポリワックス500または855(BARECO社製)、ユニワックス(日本石油株式会社製)；ポリエチレンポリプロピレン共重合体としては、ペトロライトCP-7(BARECO社製)；セレンシンワックスとしては、セレンシン810(日興リカ株式会社製)、セレンシンワックス(ニボニックス株式会社製)；パラフィンワックスとしては、パラフィンワックス155A~115A(日本精ろう株式会社製)等が挙げられる。これら固形ワックスは、全組成中に5~40重量%(以下、「%」で示す)、好ましくは10~30%の範囲で配合される。5%未

満では本発明の油性固形化粧料が成型できず、40%を超えると固形分が多すぎるため、油性固形化粧料本来の使用性が得られず好ましくない。

(B)成分の微粒子粉体は、粒径 $0.1\mu\text{m}$ 以下の酸化チタン、酸化亜鉛、酸化アルミニウム、無水ケイ酸および酸化鉄から選ばれるもので、単独または2種以上を組合わせて用いることができる。粒径が $0.1\mu\text{m}$ を超えるものでは、本発明の効果が得られず、好ましくない。これらの微粒子粉体を具体的に例示すれば、酸化チタンとしては、チタンP-25(デグッサ社製)、タイベークTTO-55A(石原産業株式会社製)、微粒子酸化チタンMT-500SA(テイカ社製)；酸化亜鉛としては、微粒子亜鉛華(三菱金属株式会社製)；酸化アルミニウムとしては、アルミナAKP-G、AKP-GM(住友化学株式会社製)；無水ケイ酸としては、エロジール200、300、R972、R974(日本エロジール株式会社製)；酸化鉄としては、赤色透明酸化鉄、黄色透明酸化鉄(三菱金属株式会社製)、トリオックスY-100、R-100(富

士チタン工業株式会社製)、ヘマタイト(住友セメント株式会社製)等が挙げられる。これら微粒子粉体は、全組成中に1~30%、好ましくは3~10%の範囲で配合される。1%未満では十分な光沢が得られず、30%を超えると粉体が多すぎるため、油性固形化粧料本来の使用性が得られず好ましくない。

また、(C)成分の液状油剤としては、通常の化粧料に用いられるものであれば特に制限されず、例えばトリグリセリドとしてはオリーブ油、ヒマシ油、トリファットS-308(日本サーファクタント工業株式会社製)；エステル油としては、ニッコールC10(日本サーファクタント工業株式会社製)、MOD(通栄化学株式会社製)；炭化水素油としては、スクワラン(岸本特殊肝油工業所製)、流動パラフィン55(日本ケミカル株式会社製)；シリコン油としては、シリコンKF98(信越化学株式会社製)、揮発性油であるシリコンDC345(トーレ・シリコン株式会社製)等を好適に使用することができる。これら液状油剤

は単独または2種以上を組合わせて用いることができ、全組成中に30～80%配合される。30%未満では十分な光沢が得られず、使用性も好ましくなく、80%を超えると、経時的に表面に発汗を生じるので好ましくない。

更に、本発明の油性固形化粧料には、前記必須成分の他、通常の化粧料に用いられる成分、例えば成分(A)以外の固形ワックス、(B)以外の顔料、染料、樹脂、高分子、界面活性剤、高級アルコール、香料、保湿剤、防腐剤、美容剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、溶剤等を本発明の効果を損なわない範囲で配合することができる。

本発明の油性固形化粧料は、通常の方法により製造することができ、例えば口紅、リップクリーム、アイシャドウ、ファンデーションなどとして適用することができるが、その中でも皿状容器に充填した油性固形化粧料の場合に特に優れた効果が得られる。

また、本発明の油性固形化粧料は、固形ワックス、微粒子粉体および液状油剤の配合バランスを

変えることにより、その硬度を自由に調節することができる。そして、硬度の目安としては、油性固形化粧料の使用性、形状保持性を考慮した場合、針入度として100～500g程度のものが好ましい。

なお、上記の如くして得られる本発明の油性固形化粧料は優れた光沢を有するものであるが、そのためには入射角、反射角共に60°の場合の光沢度が40%以上であることが必要である。

#### 〔実施例〕

次に実施例を挙げ、本発明を更に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。  
実施例1

第1表に示す組成の皿状口紅を製造し、その成型品表面の光沢度および発汗の有無について調べた。結果を第1表に示す。

#### (製法)

- A. 成分(1)～(4)を加熱、溶解する。
- B. Aに成分(5)～(8)を加え、混練する。
- C. Bに成分(9)、(10)を加え、容器に流し込み成

型する。

#### (評価方法)

光沢度：グロスメーターVG-10(日本電色工業株式会社製)を用い、入射角60°、反射角60°の条件で測定した。

発汗の有無：製造翌日の状態を目視により観察した。

以下余白

第1表

| 成分①                            | 本発明品 |      |      |      |      | 比較品  |      |      |      |      |
|--------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|                                | 1    | 2    | 3    | 4    | 5    | 1    | 2    | 3    | 4    | 5    |
| (1) マイクロクリスタリンワックス             | 15   |      |      |      |      | 15   | 15   |      |      | 5    |
| (2) ポリエチレンポリプロピレン共重合体          |      | 15   |      |      | 5    |      |      | 15   |      |      |
| (3) セレシンワックス                   |      |      | 15   |      |      |      |      |      | 10   |      |
| (4) ポリエチレンワックス                 |      |      |      | 10   |      |      |      |      |      |      |
| (5) パラフィンワックス                  |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| (6) ジペンタエリトリット脂肪酸エステル          |      | 30   | 30   |      | 15   |      | 30   |      |      | 15   |
| (7) ロジン酸ベンゾエリトリット              |      |      |      | 20   |      |      |      | 20   |      |      |
| (8) シグリセリントリイソステアレート           | 45.1 | 45.1 | 41.1 |      | 35.3 | 51.1 | 51.1 | 51.5 | 41.3 | 55.8 |
| (9) グリセリン脂肪酸エステル               |      |      |      | 55.3 |      |      |      |      | 55.3 |      |
| (10) 2-エチルヘキサン酸エステル            |      |      |      |      | 10   |      |      |      |      | 10   |
| (11) 赤色202号                    | 0.2  | 0.2  | 0.2  |      | 0.5  | 0.2  | 0.2  | 0.2  |      | 0.5  |
| (12) 赤色226号                    | 2    | 2    | 2    | 1.5  | 1.5  | 2    | 2    | 2    | 1.5  | 1.5  |
| (13) 赤色4号アルミニウムレーキ             |      |      |      |      |      |      |      |      | 3    |      |
| (14) 酸化チタン (粒径1 $\mu$ m)       | 1.5  | 1.5  | 1.5  |      | 1.5  | 1.5  | 1.5  | 1.5  |      | 1.5  |
| (15) 微粒子亜鉛華 (粒径0.05 $\mu$ m)   | 5    |      | 10   |      |      |      |      |      |      |      |
| (16) 微粒子アルミナ (粒径0.1 $\mu$ m)   |      | 5    |      |      |      |      |      |      |      |      |
| (17) 微粒子酸化チタン (粒径0.04 $\mu$ m) |      |      |      | 10   |      |      |      |      |      |      |
| (18) 微粒子水ケイ酸 (粒径0.2 $\mu$ m)   |      |      |      |      | 5    |      |      |      |      |      |
| (19) 酸化防止剤                     | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  |
| (20) 紫外線吸収剤                    | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  |
| (21) 香料                        | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  | 0.1  |
| 計                              | 78.3 | 64.2 | 68.8 | 78.2 | 65.7 | 65.4 | 61.1 | 62.5 | 41.7 | 71.5 |
| 光沢度 (60°-60°) (%)              | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | 若干あり | なし   |
| 発汗の有無                          | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | なし   | あり   |

第1表から明らかな如く、本発明の口紅は比較品に比べ著しく光沢に優れ、しかも発汗が生じないものであった。

#### 実施例2 油性ファンデーション

(成分)

|                               | (%)  |
|-------------------------------|------|
| (1) マイクロクリスタリンワックス            | 10   |
| (2) ワセリン                      | 20   |
| (3) マカデミアンナッツオイル              | 20   |
| (4) グリセリン脂肪酸エステル              | 16.3 |
| (5) 酸化チタン (粒径1 $\mu$ m)       | 8    |
| (6) 微粒子酸化チタン (粒径0.04 $\mu$ m) | 7    |
| (7) 酸化鉄 (粒径0.5 $\mu$ m)       | 2    |
| (8) 微粒子酸化鉄 (粒径0.06 $\mu$ m)   | 0.5  |
| (9) 雲母                        | 15   |
| (10) 美容成分                     | 0.5  |
| (11) 酸化防止剤                    | 0.1  |
| (12) 紫外線吸収剤                   | 0.5  |
| (13) 香料                       | 0.1  |

(製法)

- 成分(1)～(4)を加熱、溶解する。
- Aに成分(5)～(9)を加え、均一に混合する。
- Bに成分(10)～(13)を加え、容器に充填して成型する。

上記の如くして得られた本発明の油性ファンデーションは、表面に経時的な発汗がなく、しかも光沢度(60°-60°)は41.5%であり、優れた光沢を有するものであった。

#### 実施例3 リップクリーム

(成分)

|                               | (%)  |
|-------------------------------|------|
| (1) マイクロクリスタリンワックス            | 10   |
| (2) セレシンワックス                  | 10   |
| (3) ポリエチレンワックス                | 10   |
| (4) ジペンタエリトリット脂肪酸エステル         | 20   |
| (5) シグリセリントリイソステアレート          | 45.7 |
| (6) 赤色202号                    | 0.1  |
| (7) 微粒子酸化チタン (粒径0.04 $\mu$ m) | 2    |
| (8) 微粒子亜鉛華 (粒径0.05 $\mu$ m)   | 1    |

|           |     |
|-----------|-----|
| (9) 美容成分  | 0.5 |
| 00 酸化防止剤  | 0.1 |
| 00 紫外線吸収剤 | 0.5 |
| 02 香料     | 0.1 |

(製法)

- A. 成分(1)~(5)を加熱、溶解する。
- B. Aに成分(6)~(8)を加え、混練する。
- C. Bに成分(9)~02を加え、容器に流し込み成型する。

上記の如くして得られた本発明のリップクリームは、表面の経時的な発汗がなく、光沢度(60°-60°)は65.0%であり、優れた光沢を有するものであった。

実施例4 スティックアイシャドウ  
(成分)

|                       | (%) |
|-----------------------|-----|
| (1) マイクロクリスタリンワックス    | 10  |
| (2) ポリエチレンワックス        | 10  |
| (3) ワセリン              | 5   |
| (4) ジベンタエリトリット脂肪酸エステル | 5   |

を有するものであった。

[発明の効果]

以上詳述した如く、本発明の油性固形化粧料は、入射角、反射角共に60°の場合の光沢度が40%以上で、優れた光沢を有し、しかも表面に経時的な発汗を生じない優れたものである。

以上

出願人 株式会社小林コーセー

代理人 弁理士 有 賀 三 幸

弁理士 高 野 登 志 雄

弁理士 中 嶋 俊 夫

|                      |      |
|----------------------|------|
| (5) ジカブリン酸プロピレングリコール | 10   |
| (6) ジグリセリントリイソステアレート | 23.8 |
| (7) 赤色202号           | 5    |
| (8) 赤色228号           | 7    |
| (9) 蠟 母              | 10   |
| 00 微粒子アルミナ(粒径0.01μm) | 10   |
| 00 微粒子酸化鉄(粒径0.08μm)  | 3    |
| 02 美容成分              | 0.5  |
| 02 酸化防止剤             | 0.1  |
| 04 紫外線吸収剤            | 0.5  |
| 05 香 料               | 0.1  |

(製法)

- A. 成分(1)~(6)を加熱、溶解する。
- B. Aに成分(7)~00を加え、均一に混合する。
- C. Bに成分02~05を加え、容器に充填して成型する。

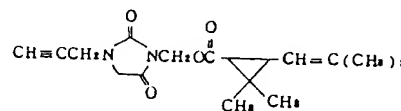
上記の如くして得られた本発明のアイシャドウは、表面の経時的な発汗がなく、しかも光沢度(60°-60°)は48.5%であり、優れた光沢

**(54) INSECTICIDAL COMPOSITION**

- (11) 3-176409 (A) (43) 31.7.1991 (19) JP  
 (21) Appl. No. 64-313737 (22) 1.12.1989  
 (71) SUMITOMO CHEM CO LTD (72) KAZUNOBU DOHARA(1)  
 (51) Int. Cl<sup>5</sup>. A01N53/00, A01N25/00

**PURPOSE:** To obtain the title composition improved in both insecticidal power and handleability by incorporating 2,4-dioxo-1-(2-propynyl)imidazolidine-3-yl-methyl chrysanthemate with a 9-15C aromatic hydrocarbon as solvent at a specified proportion.

**CONSTITUTION:** (A) An insecticidal composition containing, as insecticidal component, 10-70wt.% of 2,4-dioxo-1-(2-propynyl)imidazolidine-3-yl-methyl chrysanthemate which is well-known to be usable as an active ingredient for insecticides, however, is not so sufficient in the insecticidal efficacy, and furthermore, needed to improve handleability because of its extremely high viscosity, is incorporated with (B) 30-90wt.% of a 9-15C aromatic hydrocarbon as solvent, thus obtaining the objective composition enhanced in the activity of said insecticidal component as well as made more handleable.

**(54) VERMIN-PROOFING DESICCANT**

- (11) 3-176410 (A) (43) 31.7.1991 (19) JP  
 (21) Appl. No. 64-313933 (22) 1.12.1989  
 (71) KISHIYUU HINOKIYA K.K. (72) JUNICHI ENOMOTO  
 (51) Int. Cl<sup>5</sup>. A01N65/00, A01N25/08

**PURPOSE:** To provide a vermin-proofing desiccant composed of a principal agent produced by mixing charcoal of Japanese cypress with essential oil of Japanese cypress at a specific ratio, exhibiting rapid vermin-proofing action and long-acting vermin-proofing, drying, perfumery and antibacterial actions and effective for the treatment of the underfloor part of a building having high humidity and liable to cause the generation and proliferation of vermin and harmful microorganisms.

**CONSTITUTION:** The principal agent of the present desiccant is produced by mixing (A) charcoal of Japanese cypress having extremely high porosity and large specific surface area with (B) essential oil of Japanese cypress having excellent vermin-proofing effect and bactericidal effect, preferably granule of Japanese cypress essential oil produced by attaching and impregnating Japanese cypress essential oil to calcium silicate. The amounts of the Japanese cypress charcoal and the Japanese cypress essential oil are preferably about 95-98wt.% and about 5-2wt.%, respectively. Vermin under the floor, etc., can be instantaneously repelled or exterminated by the rapid vermin-proofing action of the Japanese cypress essential oil component and the durable desiccant effect of the Japanese cypress charcoal. At the same time, the reintrusion and reproduction of vermin and harmful microorganisms can be effectively prevented by the combination of the action of the charcoal to develop and keep the dried state and the slowly dissipating action of the Japanese cypress essential oil component. Accordingly, the objective vermin-proofing desiccant is effective in stable keeping the environmental atmosphere of the underfloor space, etc., in good state.

**(54) OILY SOLID COSMETIC**

- (11) 3-176411 (A) (43) 31.7.1991 (19) JP  
 (21) Appl. No. 64-314883 (22) 4.12.1989  
 (71) KOBAYASHI KOSE CO LTD (72) AKIRA MATSUEDA(1)  
 (51) Int. Cl<sup>5</sup>. A61K7/02, A61K7/00

**PURPOSE:** To obtain an oily solid cosmetic having excellent luster and resistant to sweating with time by compounding a specific solid wax such as microcrystalline wax with a specific fine powder such as titanium oxide and a liquid oil at specific ratios.

**CONSTITUTION:** The objective oily solid cosmetic having a glossiness of  $\geq 40\%$  (measured at an incident angle and a reflection angle of  $60^\circ$ ), exhibiting the above-mentioned effects and useful as lipstick, eye-shadow, etc., can be produced by using (A) one or more kinds of solid waxes selected from microcrystalline wax, polyethylene-polypropylene copolymer, polyethylene wax, ceresin wax and paraffin wax, (B) one or more kinds of fine powders having particle diameter of  $\leq 0.1\mu\text{m}$  and selected from titanium oxide, zinc oxide, aluminum oxide, silica and iron oxide and (C) a liquid oil as essential components and compounding the components at ratios of A:5-40wt.%, B:1-30wt.% and C:30-80wt.%.